

第14回「井戸ばた会議」

「町民と議員の対話」

昨年11月26日に井戸ばた会議を開催しました。今回は多様な方に参加をして頂きたく、午前と午後の2部構成としました。「合意形成のあり方」を広聴広報特別委員会を設定し、会

場にお越しの参加者から、さらにテーマを伺い、併せて

議題とすることとしました。

昼の部のテーマは「不登校対応のあり方」とし、夜の部のテーマは「告知端末の活用」と「下川町自治基本条例」のテーマが提案され、参加者が、各テーマが

設定されたテーブルに分かれ、意見や議論を深めてい

きました。身近な事柄から照らし合わせながら、意見や改善策を発言してもらい、テーマに沿って活発な意見交換となりました。参加していただいたみなさんありがとうございました。

これからも、多様な形での井戸ばた会議を模索して

おり、形にとらわれることなく、柔軟に皆さんのご意見を伺いたいと思います。また、ご意見を伺う場も増やしていきたいと思っておりますので皆様のご参加をお待ちしております。



それぞれのテーマごとに出た意見等の内容を全体共有している様子

<p>合意形成のあり方 (昼の部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町づくりも町民参加がない。</li> <li>話し合いの文化は必要であるが、一朝一夕にはできないだけでなく子供のうちに学ぶ必要がある。</li> <li>合意形成のやり方は議会での議論がお手本であるべきである。</li> <li>完全な合意形成は無理なのでせめて一致しない部分は明らかにすべきである。</li> <li>町民から行政に伝えるシステムがあればもっとスムーズにいくはず。</li> </ul>
<p>合意形成のあり方 (夜の部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治基本条例で合意形成の仕組みを確立する必要がある。</li> <li>合意形成といてそこにとられるのもどうか。</li> <li>目指すべきものは行政・議会ともに一致していると思うが、手法がうまくいかなかった。</li> <li>時間をかけるべきとの意見もあったが、スピード感も必要。</li> <li>何をもって合意形成とするのが難しかったのでは。</li> <li>町民全員に影響力がなければそもそも合意形成自体が成り立たない。</li> <li>議員の合意が町民の合意というのは無理があるのでは。</li> </ul>
<p>「不登校対応」 (昼の部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名寄では適応指導教室があり、在籍する学校と一体で取り組んでいる事例がある。</li> <li>対して、本町では学校か家かの2択しかなく多様な対応ができていない。</li> <li>子供にとって教育を受けるのは権利である。</li> <li>保護者がスクールカウンセラーとどう接触していいのかわからない。</li> <li>学校、家、もしくは学区等様々な選択肢を当事者に提示してはどうか。</li> </ul>
<p>「告知端末の活用」 (夜の部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報は公共だけでなく、事業所でも公共的な除雪の情報を発信できるなど、受ける側と出す側のニーズを把握するとより良いものになるのでは。</li> <li>使えるうちは今のままが良いのではないか。</li> <li>町民がどういった情報がほしいのか、どういった手段だと容易に情報を得られるのかなどを着目して更新の議論を進めるべき。</li> <li>夜突然画面が明るくなるので夜の間だけ電源を切っている。</li> <li>端末が急になくなると不便を感じる人も出てくるのでは。</li> </ul>
<p>「自治基本条例」 (夜の部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容はとても厳しい条例で、職員の負担も増えておりこの内容通りにはできない。</li> <li>自治基本条例は政策実施条例ではなく、憲法である。</li> <li>町民への認知度も低く、もっと町民に知ってもらうような工夫が必要である。</li> <li>今の若い職員は下川の事をどこまで知っているのか。</li> <li>教育委員会が作成した郷土副読本があり、転入者に配布してはどうか。</li> </ul>